研究テーマの決定②

|  |
| --- |
| 本時は、前時に引き続き、グループで行おうとしている研究について関連する情報を集め、分析し、研究テーマを決定していこう。研究テーマが決まったら、リサーチクエスチョンと仮説を決めていく。この作業は今後の課題研究の柱となるものである。時間をかけて検討し、今後およそ１年間を通して実証していくにふさわしいリサーチクエスチョンを設定してほしい。 |

■研究テーマの決定（*cf*.メソッドp.47）

前回の授業で決定したグループは、確認としてそれを書き写す。まだ決定していないグループは、引き続き関連する情報を集め、分析し、研究テーマを決定していく。その際、必要に応じて「ロジックツリー」や「キーワードマッピング」を作成して理解を深めるとよい。

|  |
| --- |
| 研究テーマ |
| 概要 |

ロジックツリー、キーワードマッピング

※集めた情報は、スクラップブックやキーワードリストに蓄積していくようにすること。並行して、ロジックツリーやキーワードマッピングを活用して、研究テーマを明確にしていくこと。なお、この目的は「情報を集めること」ではなく、そこから「現在の社会や学術でどのような課題があるかを知ること」である。ただ情報をかき集めるのではなく、集めた情報がどのようにリンクしているのか、次にどの情報を調べれば自分の疑問が解決するか、を意識すること。

■リサーチクエスチョンの設定のために

決定した研究テーマが抱える課題を解決するためには、その課題の状況や、なぜその課題がいまだに解決できていないのか、原因を正しく理解することが重要である。まずは、①その課題の現状や原因は何か、②今までどのような取組がなされていて、何が解決されているのか（いないのか）を理解する必要がある。この理解の先に浮かび上がる「無数の問い」の中から、グループで解明したい「問い」を見つけよう。その「問い」こそが「リサーチクエスチョン」である。

①５W１Hをぶつける（*cf*.メソッドp.52）

決定した研究テーマが抱える課題に５W１Hをぶつけて、グループが解決したい課題が「どこの」「誰の」「いつの」「何の」「なぜ」「どのような」ものなのかを確認していこう。課題が具体的になることで、どのように研究を進めていくのかをより具体的にイメージすることができるようになる。なお、社会科学ではなく自然科学に関する研究で、５Ｗ１Ｈが適さない場合は、別の観点からぶつけてみるとよい。

＜社会科学の研究＞

|  |  |
| --- | --- |
| どこの |  |
| 誰の |  |
| いつの |  |
| 何の |  |
| なぜ |  |
| どのような |  |
|  | ↕　研究テーマに合わせてどちらかを作成 |
| ＜自然科学の研究＞ |
| 研究を行ううえで，どのような原理や数式を理解する必要があるか？ |  |
| 研究を行ううえで必要なものは何か？（装置，機材，人材，免許，費用，試料などの面を中心に） |  |
| この研究で何を明らかにしたいのか？ |  |

②先行研究を調べる（*cf*.メソッドp.49）

課題が具体的になると、研究を進める前に、その課題に対してすでに取組や研究が行われていないかをチェックする必要がある。どんなに素晴らしい研究を行っても、その研究がすでに行われているものであれば、その研究は「紹介」に成り下がってしまう。課題に対して、今までにどのような取組や研究がなされているのか、それにより何が解決していて何が解決していないのか、しっかり把握しておこう。

|  |  |
| --- | --- |
| 今までにどのような取組や研究がなされているか？ |  |
|  | 何が解決しているか？ |  |
|  | 何が解決していないか？ |  |

【要チェック！】設定しようとするリサーチクエスチョンは、すでに研究されていないだろうか。

まだ誰も研究していない⇒社会に貢献できる研究である。 　…○

⇒研究する価値がない。（だから誰も研究していない） 　…×

すでに研究されている　⇒より進展できる研究である。 　…○

⇒進展性がない。（いくら頑張っても二番煎じになるだけ） 　…×

もし×ならば、設定しようとするリサーチクエスチョンには変更や改善が必要である。

■リサーチクエスチョンの設定（*cf*.メソッドp.59）

研究テーマが抱える課題を解決するための「無数の問い」の中から、グループで解明したい「リサーチクエスチョン」を設定しよう。

|  |
| --- |
| リサーチクエスチョン |
| 概要 |

※リサーチクエスチョンを設定するうえで注意すること

①すぐに答えが出てしまわないか？　→考えてすぐわかることは研究の必要がない

②現状を調べるだけで終わらないか？　→資料や先行研究でわかることは研究の必要がない

③用いる理論を理解しているか？　→高度で専門的な知識が必要であり高校生では解決できない

④見通しが立ち，実行可能か？　→規模が大きすぎて１年間では解決できない

⑤研究をするうえで必要なものは準備可能か？　→機材や免許が確保できない場合は研究できない

■仮説を立てる（*cf*.メソッドp.64）

仮説とは，設定したリサーチクエスチョンに対して調査・実験を行う前に立てる「答えの見通し」のことである。仮説は必ずしも最終的な「答え」と一致する必要はない。むしろ、仮説を覆す予想外の「答え」が得られたときのほうが大きな発見となる場合が多い。では、なぜ仮説を立てるのか。主に次の2つの理由がある。

①リサーチクエスチョンの再チェック

仮説が立てられないリサーチクエスチョンには問題がある場合が多い。リサーチクエスチョンに具体性が欠けている場合や研究テーマについての知識や理解が不十分である場合，仮説を立てることは難しくなる。調査・実験を始める前にもう一度リサーチクエスチョンを見直してみる必要がある。

②調査・研究の方向性を定める

仮説を立てることで，どのような調査・実験がリサーチクエスチョンへの答えにたどり着くために有効か，方向性が見えてくる。仮説を立てずにやみくもに調査・実験を行うと，まず何を行えばよいかわからないうえに，改善・重要視しなければならない要素もわからず，多くの時間を無駄にしてしまう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 仮説① |  | 根拠 |  |
|  |  |
| 仮説② |  | 根拠 |  |
|  |  |
| 仮説③ |  | 根拠 |  |
|  |  |

宿題！

■冬休みの宿題

・このプリントの作業を終わらせておく。

・次回（■月■日）の授業で発表（１グループ２分）を行うため、その準備をしておく。

■今後の予定（１学年次）

|  |  |
| --- | --- |
| 冬休み宿題 | 研究テーマの決定、リサーチクエスチョンの提示 |
| ■月■日（■）、■日（■）、■日（■） | リサーチクエスチョンの深化、ポスター作成 |
| ■月■日（■） | ポスター提出 |
| ■月■日（■） | ポスターセッション（発表） |